

令和 7 年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立小松小学校

令和 7 年 4 月完成版

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題****安全・安心な教育の推進の視点**

- いじめについて：いじめに対する意識は、「いじめはいけないことだ」との高い意識が育っている。一方、「わからない」「そう（悪いこと）思わない」との回答もあり、人権問題として教員も捉えて「絶対に許されない」という丁寧な指導の必要がある。今年度も継続して「いじめ」のない、また発生した「いじめ」に対し教職員全体で確固たる対応を行い、児童の不安感を確実に払拭する安全安心な学校を目指していく。
- きまりについて：日常生活の中で、自分の気持ちを優先してルールが意識できていない場面が多くある。また、きまりを詳しく理解していない児童がいる現状がある。学校のきまりの項目を見直し、きまり自体を児童にわかりやすいものにしていくとともに、ポジティブ行動支援の観点から（学校の・社会の）決まりやルールを守る意識の改善を図っていく。
- あいさつについて：コミュニケーションや人間関係の基本となるあいさつについては、目標達成に昨年度大きく寄与した取り組みを継続し、子どもたちがより意欲的にあいさつを交わす環境を整備していく。

**未来を切り拓く学力・体力の向上の視点**

- 学力について：昨年度は基礎学力の定着に課題が残った。また、昨年度まで「考えを深める」「伝え合う」「解決に向かって学び合う」授業づくりを推進してきたが、依然として児童によっては課題への主体的な関わりが弱く、「わからないからやらない」「失敗が不安で発言しない」といった姿も見られる。基礎学力の定着の面でも「主体的な学び」が大きく寄与することから、本年度研究活動の見直しを行い、研究主題「PBS の視点を授業に取り入れていく」という方針のもと、児童のポジティブな行動を認め合い、安心して学びに向かえる教室づくりを全教職員で目指す。各教科等の授業において、児童の「学びに向かう力」を育てる視点を明確に位置づけ、日々の実践の中で育っていく。
- 運動・体力について：大阪市の平均と比べて、体力面全般で目標を大きく下回り課題が残った。子どもたちが自主的に運動に向かうための施策や工夫においてもポジティブ行動支援を織り込み、昨年度までの取り組みから視点を変えた新しい取り組みを摸索しながら体力向上に取り組んでいく。

**学びを支える教育環境の充実の視点**

- 学習者用端末の活用について：学習者用端末の使用状況は市内でも上位にある。今年度も次世代社会を生きていく子どもたちに、スキルとモラルを必要不可欠な両輪と考え、その定着を図っていく。また、学習者用端末の利用効果も検証していきたい。
- 働き方改革について：「学校園における働き方改革推進プラン」の着実な実施として、教職員の勤務時間の適正化を目指す。授業時数や校時の見直しも含め業務時間内での効果的で効率的な時間の使い方の改革を進めていく。
- 読書について：昨年度刷新した読書週間などの取り組みが奏功し大幅な改善が図れており今年度も継続し、本と向き合う時間を確保して本を読む楽しさや有用性の意識を高めていく。

### **中期目標**

#### **【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の学校評価アンケートにおいて、「気持ちの良いあいさつができる」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。

#### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.3ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査における反復横とびの平均の記録を、大阪市平均以上にする。

#### **【学びを支える教育環境の充実】**

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。
- 学校アンケートにおける「本を読むのは楽しいと思いますか。(新聞を含む)」で肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査または校内アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の学校評価アンケートにおいて、「笑顔でいさつをしよう」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を78%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」という質問に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を44%にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力調査における反復横跳びの平均記録を大阪市平均と同程度にすることを目標とし、全学年でも 1 学期と 3 学期に反復横跳びの記録を測定し、1 学期より向上した児童の割合を 60%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を前年度以上にする。
  - ・1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること
  - ・1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること
- 学校アンケートにおける「本を読むのは楽しいと思いますか。新聞を含む）」で肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立小松小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査または校内アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の学校アンケートにおいて、「笑顔であいさつをしよう」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を78%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめを考える日に放送で校長先生から話を聞くとともに、同週内に学級で一人ひとりが「いじめについて考える」時間を設け、いじめ防止の標語を作る活動や「いのちのつながり(作文)」に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>学校アンケートにおいて、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において、最も肯定的な回答を85%以上とする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校のきまり」から「学校で期待される姿」に沿った具体的な行動について、日常場面で例示し、それが実行できた際には、具体的なポジティブフィードバック(PF)で称賛する。また、PF の方法を工夫し、児童の主体性を引き出す。</p>	
<p>指標</p> <p>学校アンケートにおいて、「学校のきまりを守っていると思いますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上とする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>年間を通してあいさつ運動に取り組み、がんばりカードなどであいさつの習慣化を推進していく。また、普段からもあいさつの意義を考える指導や実践を行ったり、登校指導で元気なあいさつを称賛したりすることで、あいさつがあふれる学校にしていく。</p>	
<p>指標</p> <p>学校アンケートの「笑顔であいさつをしよう」の項目において、肯定的な回答をする児童の数を78%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>計画に基づき、社会科や家庭科、学級活動、給食指導などの時間に食育の指導を実践し、食育の日(毎月19日)に給食時間の月目標に関する資料を活用し、食に関する指導の時間を設ける。</p>	
<p>指標</p> <p>バランスのよい食生活について考えることができるよう、食に関する指導の時間を2回以上設ける。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

## 大阪市立小松小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」という質問に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を44%にする。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。</p> <p>○5年生の全国体力・運動能力調査における反復横跳びの平均記録を大阪市平均と同程度にすることを目標とし、全学年でも 1 学期と 3 学期に反復横跳びの記録を測定し、1 学期より向上した児童の割合を 60%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>本年度の研究主題である「『できた!』があふれる教室に～PBS の視点を取り入れた授業づくり～」をめざし、授業研究を行い、研究を進める。また、授業におけるポジティブな行動（例：進んで発言する、話し合いに前向きに関わる、相手の話を肯定的に受け取る 等）を支援・促進する。</p>	
<p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」という質問に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を44%にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>児童の俊敏性を高めるため、体育の授業を中心に、系統的・継続的な運動機会を確保し、反復横跳びに関連する動きへの意識を高める指導を行う。また、運動遊びや学級活動などとも関連づけながら、楽しさや達成感を実感できるような取組を通して、児童の身体活動量の確保と技能の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>反復横跳びの記録を 1 学期と 3 学期の 2 回とり、1 学期より向上した児童の割合を60%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

## 大阪市立小松小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった						
年度目標	達成状況					
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の90%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を前年度以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること</li> <li>・1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること</li> </ul> <p>○学校アンケートにおける「本を読むのは楽しいと思いますか(新聞を含む)」で肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>						
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況					
<p>取組内容①【基本的な方向 6、教育DXの推進】</p> <p>「こころの天気」の活用を習慣化するためのルーティンを決め、児童が自主的に端末を活用するよう、環境整備や時間確保に努める。</p> <p>指標</p> <p>学習者用端末 月間活用率表において、児童の8割以上が端末を活用した日数が学期ごと90%以上にする。</p>						
<p>取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たすために、業務と生活の両立ができるゆとりのある時間を設ける。また、児童と向き合う時間を確保し、教職員が健康かつ活気のある環境をめざす。</p> <p>指標</p> <p>ゆとりの日を週1回設定し、18時までには退勤する。</p>						
<p>取組内容③【基本的な方向 8、生涯学習の支援】</p> <p>毎週火水金曜日に朝読書の時間を設けるとともに、図書ボランティアと協力して読書習慣をつなぐようにする。また、委員会や学級で読書週間など、読書に関する活動を行い、子どもたちが読書に親しむ環境を整備する。</p> <p>指標</p> <p>学校アンケートにおける「本を読むのは楽しいと思いますか(新聞を含む)」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>						
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析						
次年度への改善点						